tok中期計画2018

（2017年3月期～2019年3月期）

-Challenge for the Future！-

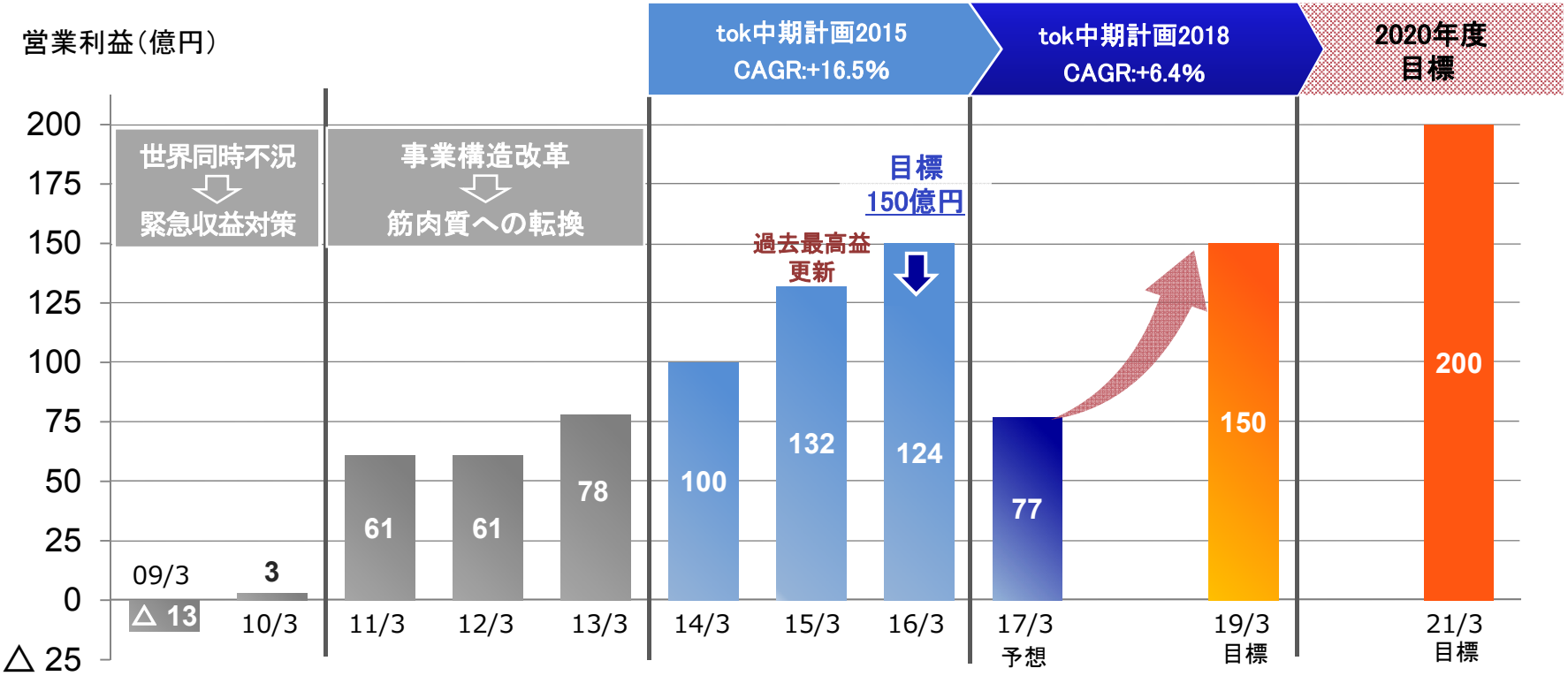
2016年5月11日

目次

- tok中期計画2015／次期中計の展望
- tok中期計画2015総括
- tok中期計画2018
  - 概要･業績目標
  - 全社戦略
- ROE/株主還元

tok

1.tok中期計画2015／次期中計の展望



過去最高益を更新、しかし、**最終年度は伸び悩み**、目標に届かず

次期中計（tok中期計画2018）の展望

初年度減益予想も、最終年度に**最高益更新**を目指す

tok

2.tok中期計画2015総括

■ 主要製品の売上計画達成状況

（注）図の大きさは売上規模を示しておりません。
■ ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機能材料

上振れ(⇗)	高純度化学薬品			
ほぼ同水準(⇔)	ArF	KrF	g＋i	高密度実装材料
下振れ(⇘)	LCD材料	新規事業/新規材料	装置事業	

⇗ 高純度化学薬品
- ✓ 顧客プロセスに合わせた高品質グレードの開発、拡販により差別化に成功

⇔ ArF：北米向けが牽引。顧客密着戦略推進。

⇔ KrF： アジア向け年率2ケタ成長が寄与。

⇔ g+i ：プラス成長確保

⇔ 高密度実装材料
- ✓ OSAT大手メーカーへの拡販、新規顧客の開拓が成功。

⇘ LCD材料：業界環境の変化、新規採用進まず

⇘ 新規事業/新規材料
- ✓ 再生可能エネルギー(太陽電池関係)：目論見が外れ、振るわず
- ✓ 蓄電材料分野：マイクロ二次電池等：事業化に至らず

⇘ 装置事業：市場の立上り遅延

（単位：百万円）	2016/3 中計目標	2016/3 実 績
売上高	99,000	89,969
材料事業	88,000	87,280
ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ機能材料	62,300	51,134
高純度化学薬品	25,500	35,931
その他	200	214
装置事業	11,000	2,689
営業利益	15,000	12,438
材料事業	16,800	16,203
装置事業	1,500	△423
消去又は全社	△3,300	△3,342

顧客密着戦略は具現化、事業ポートフォリオの変革は遅延

3. tok中期計画2018　概要・業績目標

初年度減益を成長戦略により挽回、過去最高益を目指す

（単位：百万円）	2016/3	2019/3	増減	CAGR
売上高	89,969	**120,000**	+30,030	+10.1%
材料事業	87,280	**110,000**	+22,719	+8.0%
エレクトロニクス機能材料	51,134	**68,000**	+16,865	+10.0%
高純度化学薬品	35,931	**37,000**	+1,068	+1.0%
その他	214	**5,000**	+4,785	年2.9倍
装置事業	2,689	**10,000**	+7,310	+58.2%
営業利益	12,438	**15,000**	+2,561	+6.8%
材料事業	16,203	**17,000**	+796	+1.6%
装置事業	△423	**1,700**	+2,123	－
消去又は全社	△3,342	**△3,700**	△357	－
経常利益	12,684	**15,000**	+2,315	+5.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	7,716	**10,000**	+2,283	+9.0%
為替（米ドル/円）	119.3	**105.0**	△14.3	－

設備投資等（単位：百万円）	2011/3～13/3	tok中期計画2015（2014/3～16/3）	tok中期計画2018（2017/3～19/3）	前中計比
設備投資額	10,195	27,774	**34,000**	+6,226
減価償却費	12,190	12,581	**22,000**	+9,419
研究開発費	18,729	20,308	**24,000**	+3,691

4-1. tok中期計画2018　全社戦略

事業ポートフォリオの変革

研究開発型企業として、高付加価値にこだわり存在感を確立

主力製品の新陳代謝

- ArF　1X世代の需要増、10nm以降の採用獲得
- KrF　3D-NAND向け厚膜レジストの採用拡大
- 高密度実装材料
  - 新規/先端プロセス用途（例：FO-WLP）
  - MEMS材料
- ディスプレイ材料 最先端向け高付加価値材料
- 高純度化学薬品 新規Clean Solutionの導入

- 事業の新陳代謝促進
- 新規事業領域の開拓
  （オープンイノベーション等）

製品の多用途展開

- CMOSイメージセンサー用途
- 電子部品用途
- パワーデバイス用途

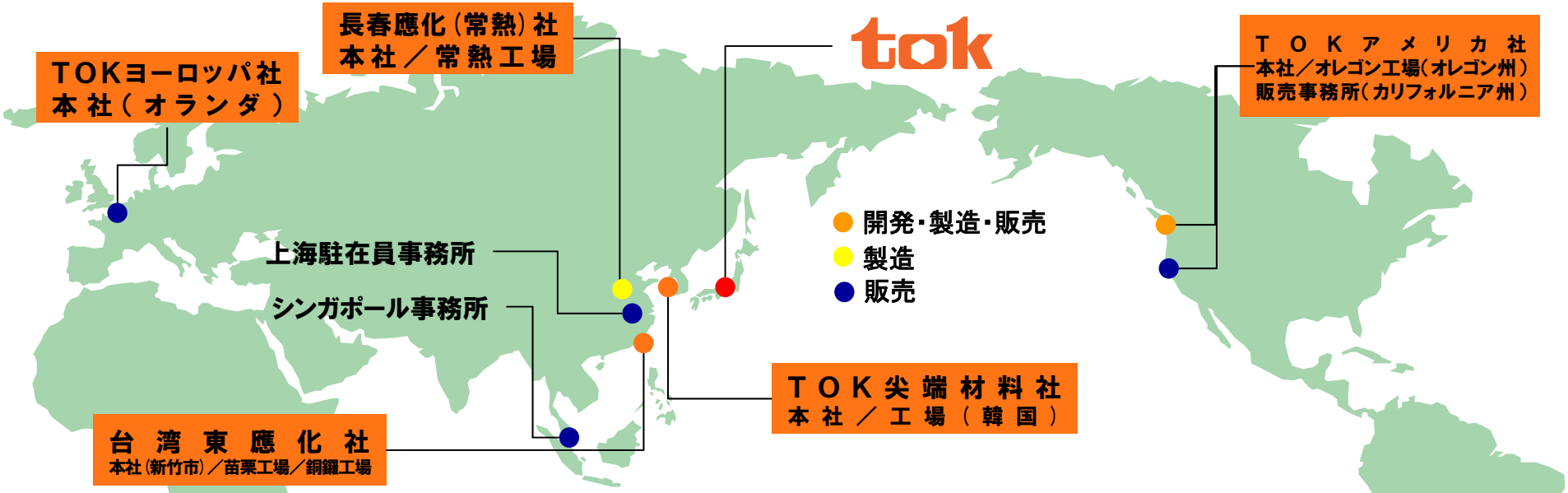
新規事業／新規材料

- 注力テーマ（機能性フィルム、ＮＩＬ等）の事業化
- 有望テーマの育成
- 新規テーマ創出を加速 ⇒ｺｰﾎﾟﾚｰﾄﾍﾞﾝﾁｬﾘﾝｸﾞ部の新設

4-2. tok中期計画2018　全社戦略

顧客密着戦略の進化

仕組み構築から、収穫のステージに移行



顧客との長期的信頼関係のもと、技術力を発揮、目指す成長を実現

ArF：シェアアップ
30％以上

＋

- KrF（3D-NAND向けを柱に更なるシェアアップ）
- 高密度実装材料（新規開発品の供給拡大）
- 高純度化学薬品（製品高度化の需要獲得）
- 中国市場（顧客サポート体制の強化）

4-3. tok中期計画2018　全社戦略

装置事業

3装置分野に経営資源を投下、3アプローチで販売強化

装置：新装置開発/販売

LCD製造用塗布装置

厚膜プロセス
スピンコーター

厚膜プロセス
デベロッパー

TSV装置分野

Zero　Newton用
ボンダー装置

Zero　Newton用
デボンダー装置

UVキュア装置分野

⇒OLEDディスプレイ
新規アプリケーション/新規ラインへのアプローチ

次世代OLED
ディスプレイ製造装置分野

試作開発ラインへのアプローチ

Foundry／OSATへのアプローチ
⇒TSV技術導入の進行

FO-WLP
(Fan-Out
Wafer Level Packaging)

FO-PLP
(Fan-Out
Panel Level Packaging)

部品・材料販売：3装置分野関連
サービス：修理・改造

～2013/3期	tok中期計画2015（2014/3期～2016/3期）	tok中期計画2018（2017/3期～2019/3期）	2020/3期～

5-1.ROE

2020年度
強靭な財務基盤とROE8%以上
の実現を目指す

■ ROE改善の考え方

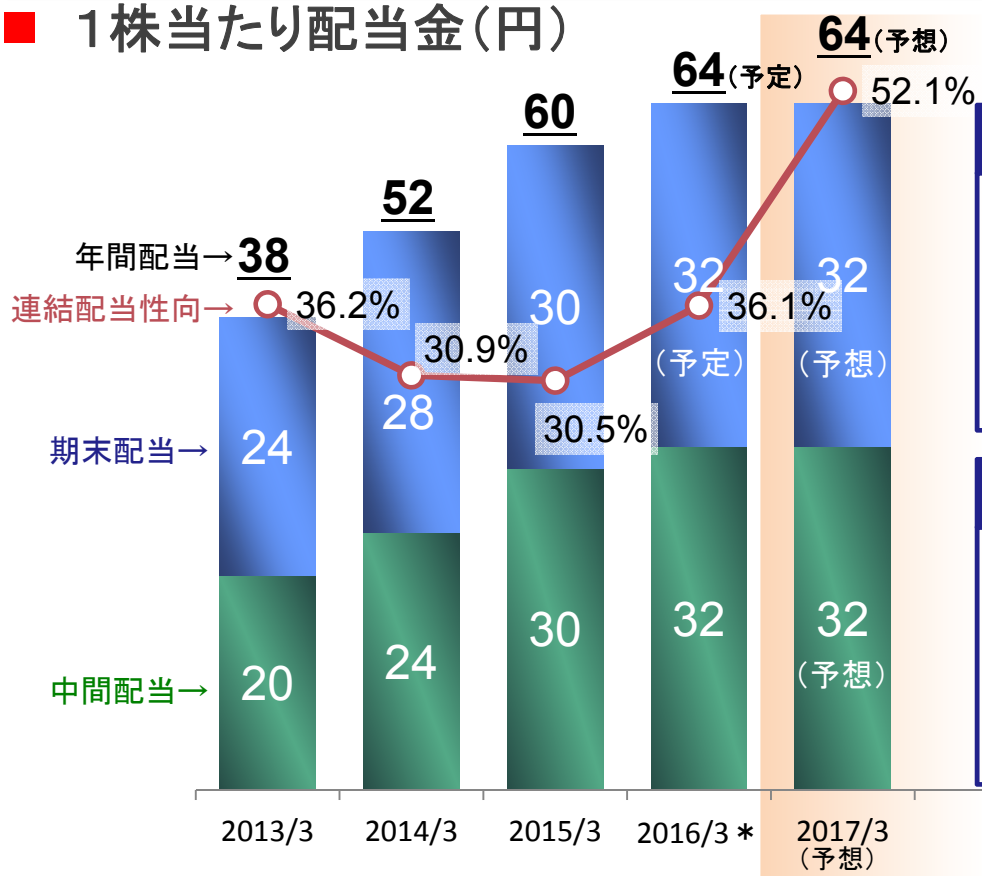
✓ 「tok中期計画2018」(2017/3期～2019/3期)：成長のための先行投資期間
⇒ROE目標(2019/3期)：7%以上　利益成長を基本に目標を達成

✓ 2020年度に8%以上の実現を目指す

5-2.株主還元

配当重視の株主還元強化

■ 1株当たり配当金（円）



営業利益（億円）	78	100	132	124	77		150

＊:2016/3月期は創立75周年記念配当4円/年が含まれております。

配当政策（2017/3期以降）

■ 現在の水準を考慮しつつ連結配当性向40%以上の配当を継続的に実施
（※連結配当性向に関するガイドラインを30%以上から40%以上に引き上げ）

自己株式の取得

■ 長期的な視点に立ち弾力的に実施

http://www.tok.co.jp/

（ご注意）

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。したがいまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。